

平成26年度事業報告書

社会福祉法人わかば福祉会

わかば園作業所

わかばグループホーム

わかば園第二作業

基本方針について

1. 障害者の働く施設として、一人ひとりがその能力を十分発揮できる環境を整備する。
2. 介護や日常生活支援を要する利用者に対しては、野外活動・音楽・レクレーション等の活動を通して人として感情豊かな生活が送れるよう支援する。
3. 通所の福祉施設として、在宅生活を送る上で利用者が抱える福祉課題の解決に向けての取り組みも積極的に行う。
4. 地域の伝統文化継承に貢献する活動も今まで以上に積極的に取り組む。
5. 一般就労可能な方の就職支援を行う。

施設の概況

1) わかば園作業所について

1 利用人数（平成27年3月31日現在） 33名

〈生活介護〉	16名
障害程度区分6	3名
障害程度区分5	2名
障害程度区分4	5名
障害程度区分3	3名
障害程度区分2	2名
障害程度区分1	1名

〈就労継続支援B型〉	17名
障害程度区分2	7名
障害程度区分1	4名
無	6名

2 職員（平成27年3月31日現在） 21名

〈生活介護〉	
生活支援員	9名（常勤換算7.1人）
看護職	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）
〈就労継続支援B型〉	
作業指導員	3名（常勤換算2.5人）

生活支援員	1名
目標工賃達成指導員	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）
〈共通職員〉	
調理員	2名
送迎員	1名
事務員	2名
（有資格者 介護福祉士3名、社会福祉士1名）	

3 利用日 269日

4 平均工賃（1ヶ月当たり）

平成21年	13,511円
平成22年	17,179円
平成23年	18,734円
平成24年	22,927円
平成25年	23,244円
平成26年	26,853円

5 年間売上額

平成21年	13,239,417円
平成22年	16,932,085円
平成23年	17,973,721円
平成24年	20,846,316円
平成25年	23,371,467円
平成26年	23,928,588円

6 防災訓練（避難・通報・消火等） 年2回実施（7月、3月）

7 評議員会・理事会

会 議	日 時	内 容
第6回理事会 第5回評議員会	平成26年5月27日	平成25年度事業報告等 入札参加者について
第7回理事会 第6回評議員会	平成26年10月20日	長期借入金 入札結果について

第 8 回理事会 第 7 回評議員会	平成 2 6 年 1 1 月 1 0 日	理事・監事の選出 第二作業所の事業計画
第 1 回理事会	平成 2 6 年 1 1 月 1 5 日	理事長の選出
第 2 階理事会 第 1 回評議員会	平成 2 7 年 3 月 2 3 日	平成 2 7 年度事業計画 補正予算 定款・就業規則・給与規 程・経理規程の変更

職員からの 2 6 年度の感想

給食担当（藤田）

1 月から 3 月まで厨房において取り組んできた事。6 8 人分の味噌汁の量、カレー等の材料の量、すべてわからず出来上がりが多くても少なくても駄目で、毎日失敗・反省の繰り返しです。材料費を安くあげる為に買い出しに行くことも多く、取り組んでいることの一つでしょうか？

日々、注意していることは清潔・不潔を間違わないこと。少しでも薄味でと思っても、これは召し上がる方々の嗜好があつて難しいです。メニュー作りは、利用者さんの希望を少しでも取り入れたいと思っておりますが、予算・人数・厨房の鍋などの都合で中々難しい面があり申し訳なく思っています。日々、衛生的に料理を作り無事に過ごすことだけを考えて追われているような気がしています。

生活介護・のびのび班（中野）

1 年間、のびのび班 10 名の健康管理として、検温やバイタルチェック・月 1 回の体重測定の実施、個々人に合った足浴やマッサージを行いました。そして週 1 回、水曜日に看護師が来ており、その際には爪切りや健康へのアドバイスなどをして頂きました。看護師という専門職の方からのアドバイスは皆さん真剣に耳を傾けて頂いております。

音楽活動では、それぞれに応じた楽器を見つけると同時に、いつもは自己主張がない方でも一人ひとり皆さんから注目される場面を作るよう心掛け、達成感や満足感を味わって頂ける活動作りを行いました。

それはこれからも続けていけるよう頑張っていこうと思っております。

外活動では、弁当持参で遠足に行ったり、ホテルの一室を貸して頂き忘年会をしたりと季節に合った行事を実施しましたが、予定していた運動会が出来ずに終わり残念に思っています。

今年も色々な行事を実施し、心身ともに満たされリフレッシュして頂けるよう

頑張りたいと思っています。

生活介護・のびのび班（的場）

健康管理として、検温測定、バイタル測定を行い、体調管理に努めました。音楽活動では、全員が参加し、音楽を楽しみ、一人一人前に出て注目される場面を作りました。また、音楽活動を日々の活動の中に取り入れています。

生活介護・農耕班（岸野）

畑の運営について

現在 四カ所の畑を管理していますがそのうちの一つの畑に植えたお茶を枯らせてしまいました。これは、この畑の土壌がお茶に適していないことが原因と検査の結果分かりました。この畑は遠方にあり、野菜等の栽培管理には無理なので、返還する事になりました。

一年を通しての野菜作りを行い、大根は二月の中頃まで収穫する事が出来ました。その後は土作り、草取り、耕耘などを行いました。

ショッキングなこととして、大根、そら豆、かぶ等が盗まれるという盗難が相次ぎました。60本ほどの盗難がありました。警察にも連絡し畑をパトロールしてもらい夜中に張り込みもして貰いましたが、犯人は分からずじまいでした。

利用者の能力アップについて

利用者六名 それぞれが出来る事を頑張り 新しい事にも挑戦してもらいました。耕耘機を操作出来る利用者は昨年1名から2名になりました。

鍬、みつぐわが使える利用者を増やす事は出来ていません。ただ土をかくだけなら出来る利用者もいますが 畝作りが出来る利用者は育てる事が出来ませんでした。

朝の出発や集合に関しては皆 時間通りに時間よりも5分10分速く出来る様になりました。作業に必要な物の用意もそれぞれが出来る様になってきています。

就労継続支援B型・外部事業班（上地）

昨年の3月から1年間よろず班で活動をさせて頂きました。最初から野外での作業でしたので、園内の事を知るまでに時間がかかりました。またよろず班の仕事も、これまでに経験したことのない稲作や除草作業等覚えるだけで精一杯でした。真夏の炎天下での除草作業では「自分が苦しかったらダメなんだ。もっと余裕をもって」と所長に言われましたが、暑さと作業が進まない焦りで余裕がないことが多くありました。その為、利用者さんへの支援も行き届かなく申し訳なかったと思います。聴覚や視覚の不自由な利用者さんへの配慮もうまく出来

なかったことも反省し次の課題にしていきます。

この4月からは、東牟婁庁舎の掃除。これまでのトイレ掃除に加え庁舎全体の掃除を委託され男女6名の利用者さんと作業に取り組みます。トイレ掃除では、6名体制から3名体制になりますが、終了時間も仕上がりも従来と変わりがないようにしたいと思います。階段や廊下、外回りの掃除では新しい道具を使うこともあります。まずは、道具に慣れてもらい危険の無いよう配慮しながら効率よく作業を進めていきます。

就労継続支援B型・外部事業班（岡本）

2014年度 就労支援B型外部事業班事業計画は、①利用者の工賃アップを目指す。【個人の技術・能力アップ】②すぎもと農園からの委託作業に取り組む。③田んぼをする。【2000kgを目標】④除草作業やアパート清掃作業をする。⑤日々の活動を通して、社会に役立っていることを自覚させながら明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。

以上の事を柱にしなが、一年間活動してきた。

① 利用者の工賃アップを目指す。【個人の技術・能力アップ】

このためには、収入を上げるために様々な作業をしてきた。道具類を使いこなせるようにするために草刈りの作業では、範囲を決めて作業をさせることを試みてみた。又、その場所の状況を草の生え具合を確認して、チップソーか紐で作業をするのかも判断させたりしながら作業してきた。利用者によっては、状況が判断できたり出来なかつたりする事もあった。工賃の平均は、昨年度よりもアップすることが出来た。

② すぎもと農園からの委託作業に取り組む。

昨年度に引き続き委託作業に取り組むことは出来た。毎月コンスタントに作業に行くことは、難しかった。《天候に左右されたり、他の作業が滞ってきたりしたため。》昨年経験していた作業については、話しをきちんと聴いて作業開始することが出来ていた。作業によっては、一緒に作業を行う方が、効率よくできる利用者もいた。新しく試みた作業も間違うこともなく出来ていた。道具を使った作業では、収穫の時に使うハサミも使いこなすことが出来ていた。《切り取るころの長さの違いはあった。》

③ 田んぼをする。【2000kgを目標】

お米の収穫量については、目標達成する事が出来なかった。田んぼの作業については、準備をする期間に集中してしまうことが多くて、常日頃から田んぼに関わることが出来なかった。準備して、田植えをして収穫するまでの大変さが改めて解った一年だった。《水の管理など》

④ 除草作業やアパート清掃作業をする。

年間を通して作業は、出来た。暑い時期の除草作業は、毎年の課題だが、大変だった。利用者は、一部の利用者を除いて、全員機械を使えるようになった。一人で出来る利用者と一緒に付いて作業をしないと不安になる利用者が居た。《状況を判断しながら作業することが難しい利用者》

アパート清掃作業では、部屋の状況にもよるが、各自役割分担を決めて作業した。道具類も色々使って出来るようになり、作業手順の確認などもしながら取り組んできた。しかし、細かいところがなかなか出来ていないことが多かった。

⑤ 日々の活動を通して、社会に役立っていることを自覚させながら明るく・楽しくお互いに協調して活動していく。

色々な作業場面での挨拶が出来てきた。おたがいに得手不得手があるから、声かけをしたりして、作業をする事が出来ていた。利用者同士のいがみ合いなども無く明るく・楽しく日々作業に取り組めた。

就労継続支援B型・ひじき班（久保）

県庁舎のトイレ掃除については、1年を通してメンバー（6名、欠席者がいる時は応援1名）と役割を固定して取り組みました。作業内容に関しては慣れによる気の緩みで、拭き残しや磨き残しなどがあり点検や声掛けが必要でした。メンバー間でのトラブルは多少ありましたが、コミュニケーションでの行き違いや、言い方が主な原因でした。それぞれ注意し話し合う事で長引くことなく、短期間での解決が出来るようになってきました。

欠席者が出た時もお互いに話し合いフォロー出来るようになってきました。墓掃除にも年4回、よろずのメンバーにも数人入ってもらい草刈の機械を使う作業を行いました。定期的な掃除もメンバーを固定し、少人数にした事で技術もアップ出来てきたように思います。

ひじきの加工作業では2000kgの源藻をもとに加工、販売を行いました。そのために容量190ℓの回転釜も購入しました。一度に沢山の量のひじきが炊けるようになり、効率が良くなりました。利用者の人にも釜から炊きあがったひじきの取り出しや芽と長ひじきの仕分けと作業種類も増やしましたが、どの作業も、自分たちが取り組む仕事として意識が持てるようになったと思います。そのためか、昨年度よりも役割分担もしっかりできてきたように思います。また、唐箕の機械も購入し、芽ひじきの中に混在している小石などの異物を効率よく取り除くことにも取り組みました。

4月より[おてがるひじき]とネーミングを付けた新しい商品も売り出しました。名前通り、人参、椎茸がひじきと共に入っており、パッケージには絵柄でレシピを記載しました。手軽な値段と簡単に作れる事でひじき料理を知らない若年層の方にも買って頂ける様になったと思います。使用しているひじきは加工

段階で折れたひじきを再利用しています。その結果、ひじきを無駄なく使えて、商品化出来た事が仲間の工賃向上にも繋がった様に思います。

営業では田辺、白浜方面にも営業かけて、A コープ 6 店舗が取ってくれるようになり販売先が増えました。

昨年も全国生産活動に参加させて頂き、地方の関わりも多数できて施設などにも販売に繋がったと思います。

就労継続支援B型・ひじき班（内門）

昨年の6月より働かせていただいています。これまで保育士としての子ども達へ関わる経験しかなかった為、利用者さんへの支援については学び、他の職員の皆さん・利用者さんからも教えていただく事ばかりの日々でした。

利用者さんに対しては、新入という事もあり、支援というよりも「仲良くなる」「名前を覚えてもらう」という事に重点を置いて関わりを持つようにしました。初めはあまり話し掛けてくれなかった利用者さんも、時間が経つにつれ、名前を呼んで挨拶をしてくれるようになったり、話し掛けてくれたりするようになったのが嬉しかったです。

入職から9月後半までは生活介護の農耕班の仕事をさせていただきました。草刈り、畝作り、耕運機など、初めて扱う道具や機具・初めて行う仕事ばかりで戸惑いや不安があったのは事実ですが、日々新たな知識や技術を身につけられる事は楽しみでもありました。

仕事に慣れる事に精一杯で十分な支援は出来ませんでした。1日中屋外での作業は体力を使い、時には危険を伴う機具も使用する事もあったので、健康状態や様子を見るために声掛けをして把握し、怪我等に繋がらないように動きを注意深く見守るよう心掛けました。

9月後半からは、就労のひじき班で仕事をさせていただいています。

農耕班の屋外の仕事から屋内での仕事になった為、慣れるまでは少し時間がかかりましたが、美味しいひじきを提供する為に頑張ろうとする利用者さんたちの姿やひじき班の雰囲気を感じて、自分自身も奮起する事が出来ました。

今後の課題としては、集中を持続しにくい利用者さんに対して、集中力が高まる雰囲気・環境がどうすれば作れるか、また、聴覚や視覚の面で他の利用者さんに比べ指示が伝わりづらい利用者さんに対する支援について円滑に意思疎通が出来るようにするのはどうすれば良いかを中心に、それぞれの利用者さんの特性を踏まえ、常に考えながら模索していきたいと思っています。

自分自身については、まだまだ仕事に対して不慣れな部分があったり障害や福祉に対する知識不足・勉強不足が多かったりするので充実した支援が出来るとは言えない状況ですが、これからより一層学び少しでも利用者さんにとつ

て良い支援が出来るよう励みたいと思っています。

全体として（田邊）

当園には一般就労可能な方、福祉施設内での「就労」なら可能な方、また、障害のため介護を必要とする方、問題行動が多く四六時中目が離せない方とさまざまな方が利用されています。おまけに年齢も18歳から68歳までと幅広い年齢層が混在しています。これらの方一人ひとりの経済的自立あるいは精神的自立を支援することが私たちの役割です。

さて、昨年度の一般就労実績は障害者生活・就労支援センター「アーチ」の協力のもと4人が就労できましたが、うち2人は定着が悪く半年間のうちに退職してしまいました。（現在、他施設に通所中が一人、アルバイト中が一人）作業能力が高い人ほど、就職してしまうため、施設の生産力は低下してしまうというジレンマも生じます。私たちの施設で一般企業に負けないだけの工賃を保障できたらという思いもあります。

施設内での「就労」への取り組みは、ここ10年間連続して工賃が上昇しているの、それなりに私たちの努力は成果となっています。利用者も年を追うごとに仕事量が増え、その内容も多彩となってきているので、職場としての緊張感や社会的責任を利用者は感じています。それにより高い専門性が職員に求められています。利用者への指導力はもとより、作業の効率化や作業工程の工夫、新しい取り組みを作り出す企画力等の能力です。平成26年度に目立って成長した分野は、ひじき製造・販売です。業務スーパー「よってって」の全店舗に出荷できるようになったこと、施設や学校給食で食材として採用して頂いたことが売り上げ増の要因と考えています。昨年度は、太地町漁協より2tの原藻を購入し加工しましたが、材料が足りず出荷量を調整する場面もあり関係者にご迷惑をかけてしまいました。生産設備については回転釜を導入したこと、乾燥機をもう一台増やしたことにより大幅に改善され、注文以上の生産体制が確保されました。また、芽ひじきに混在している小石や貝殻等ゴミの除去は、すべて手作業で行い大変手間を要した作業でしたが、「唐箕」使用により作業の効率化も進みました。

ビルやアパート等の清掃業務は、施設外就労として平成21年より入札で落とし続けている県庁舎のトイレ清掃と不動産業者からの依頼によるアパート等の清掃とがあります。県庁舎のトイレ清掃は6年間の経験により利用者の働きぶりは洗練されたものとなっていますが、入札結果によっては継続的に取り組めるか不確定要素を含む仕事です。また、アパート清掃等はいつも飛込みで入る仕事であり毎日の安定した作業が確保されないこと、しかも汚れがひどく利用者の判断や能力を超える内容が多いこと等の大きな課題があります。

真夏の炎天下にしかも一番暑い時間帯での草刈り作業は、常に熱中症や脱水の危険があるので作業量を少なくしていきたいと考えていました。そこで、昨年の11月より御浜町山路地区でみかん園を始めました。27年度に最初の収穫を迎えます。稲作は耕地面積を若干増やし、3反半としました。収穫した米は、冬の物品販売や施設での消費等で生産したすべては春には完売しました。しかし、売り上金の多くは、苗、収穫の際の刈り入れ、脱穀、乾燥等の代金で消失してしまい、思ったほど残りませんでした。27年度の稲刈りは自分たちで行い出費を抑えたいと思います。

野菜栽培を中心に取り組んでいる生活介護の農耕チームは、外部の専門職からの指導を受け、着実な農耕作業を行っています。今年は、収穫前の野菜が盗難に逢うという腹立たしいことも経験しましたが、いい野菜を作っています。

重度な障害を有する方を中心メンバーとした「のびのび班」には、単に介護を必要としているだけでなく、突発的で破壊的な衝撃行動を頻発する方もおります。他害行為もあるので警戒を怠ることはできませんが、監視し問題行動を抑止するだけでは、彼らに良い環境を提供できないばかりか、狭くて行き苦しい状況を作ってしまうます。施設での欲求不満が家に帰ってから不適切行動を多発させてしまいかねません。音楽や体操、ドライブや散歩等を取り入れた活動を組み合わせた日常を送ることにより心身ともに安定して穏やかな毎日を過ごして欲しいと思っています。そのためにも音楽療法士の福田氏の指導を受け職員の指導力を高めたいと思います。

職員研修

内 容	月 日	参 加 者
「バリアフリー2014」の見学	平成26年4月19日	瀬田・中野
県福祉協会主催の研修（支援計画）	平成26年7月3・4日	鈴木・中野
ひじき工場の見学	平成26年7月15日	久保・橋爪
全国グループホーム研修	平成26年24日・25日	岸野・瀬田
行動障害者支援養成研修	平成26年8月30日	中野・中西
社会就労センター研究大会	平成26年10月29日	中西
音楽療法（事例から学ぼう）	平成26年10月25日	中野・的場
サービス管理責任者（介護）	平成26年11月12日・13日	岡本
ノロウイルス予防	平成26年11月26日	橋爪
清掃活動の支援研修	平成27年1月22日	上地
虐待防止研修（県主催）	平成27年2月10日・11日	久保
優先調達・障害者差別について	平成27年2月19・20日	内門・中西

おもてなし研修会	平成27年3月5日	的場
体幹トレーニング	平成27年3月14日	鈴木他3名
集団指導（県主催）	平成27年3月19日	中島
虐待研修（伝達研修）	平成27年3月30日	全職員

わかばグループホーム

- 1) 行事 入居者全員が、わかば園作業所の利用者です。ホームとして定期的に保護者を交えての誕生会（食事会）を開催しています。また、忘年会、花見を開催して生活にも季節感を取り入れるよう努めています。
- 2) 入居者数 定員11名
- 3) 費用（自己負担額）

浮島ホーム	家賃	20,000円～30,000円
	生活費	31,000円
神倉ホーム	家賃	10,000円
	生活費	28,000円
- 4) 職員 世話人3名、支援員5名、サービス管理責任者1名（兼務）
管理者1名（兼務）
- 5) 連携 入居者8人が地域福祉権利擁護事業と契約しています。その担当者と利用者の金銭管理等について意見交換し、適切な地域生活ができるよう連携した支援に努めています。また、施設でグループホーム連絡会を不定期ながらも開きました。
- 6) 営業 年中休み無 365日食事も提供

グループホーム世話人の感想（久保 千早）

26年4月に重度な方一名が入所施設に移りました。そのことにより夜間の介助が軽減し、5月より夜勤体制から宿直体制に変更しました。平成27年3月、1名入居希望があり、「かみくらホーム」の空き部屋に入居することとなり定員11名となりました。うち1名は、「うきしまホーム」くのアパートに住み一人暮らしをするというサテライト型での支援を始めました。いろいろと問題が多く何かと大変でしたが、入居者の皆さんが元気で作業

所や職場に通うことが出来て良かったと思っています。また、関係機関との連携や協力があつてこそその一年でした。

2) わかば園第二作業所について

1 利用人数（平成27年3月31日現在）15名

〈就労継続支援B型〉

障害程度区分3	2名
障害程度区分2	5名
障害程度区分1	3名
無	5名

2 職員（平成27年3月31日現在）3名

〈就労継続支援B型〉

作業指導員	1名
生活支援員	1名
サービス管理責任者	1名（兼務）
管理者	1名（兼務）

（有資格者 介護福祉士3名）

3 利用日 66日

4 平均工賃（1ヶ月当たり）

平成26年 22,377円

5 年間売上額

平成26年 4,560,238円

6 防災訓練（避難・通報・消火等） 年1回実施（3月）

職員からの26年度の感想

就労継続支援B型・工芸（中西）

1、どういう意図で作業に取り組んだか

前年度に時間が掛かった作業、上手く行えなかった作業を中心に全体の失敗を抑え、作業の効率を上げる事ができるよう意図して作業を行いました。また後半では新しく第二作業所に移った事で機械の位置や材料置場、作業の動線などを考え、どのように作業を行っていくか、どのような配置にすると職員が目が届き、安全に留意した作業が行えるかなどを考えました。また、職員の今まで班の中での担当を入れ替えて、今まで当たり前として意見として出なかったものをもう一度考え、3人で意見を交換できるように心掛けて作業に取り組みました。

2、目標を達成する事ができたか

- ・お燈の松明のイオン、オークワへの納品にかかる時間の短縮をする事ができました。しかし、電話で予約した時間に行っても担当と都合が付かずによく打ち合わせできなかつたり、納品時にラベラーが無く待つ事になったりと、まだまだ改善する事ができると思いました。
- ・営業の回数やその内容、営業の資料など今まで担当しか知らなかった事が分かるようになりました。発送の代金、包装の方法等も変更しました。

3、支援内容と効果

卒塔婆作りについては問題無く、利用者で作業を行える事が増えています。仕上げを行っている前田さんや梱包を行っている松下君など、作業を行いながら仕上がりを確認し、傷がある、仕上がりが綺麗じゃないのでは無いかなど、職員に確認する事が出来るようになって来ました。また新しく前年度から入った海野君や石田君も少しずつ作業に慣れて、丁寧な作業が行えるようになってきています。水本君の桧の選別についてもまだまだ確認は必要ですが作業に取り組む事ができています。

お燈物品については桧材料が上手く揃わなかつたり、第二作業所の準備と重なつたりと、松明作りが途中から遅れたりしました。25年度までは華作りや手じり作りは職員の調整が必要ですが、今年度は利用者だけで作業を行う事ができました。

作業の効率が上がった事もあり、余裕ができる6月には草刈等で忙しいよろず班より夏物品を受け工芸班で行う事ができ、普段作業所内で作業する事が多い工芸班利用者からは、配達で外に行ける事や普段と違う作業は、好評でやる気がみられました。

今年度は利用者の就職などで、縄を編める利用者が、また居なくなっている事。残っていた荒縄も全部売ってしまった事、藁の確保、荒縄をどうやって準備するかなど課題は色々出てきています。

就労継続支援B型・工芸（鈴木）

縫製作業の方では白装束・コカリナ巾着・蚊帳布巾をメインに作業をしています。昨年は縫製室を留守にしがちな日が続き、コカリナ巾着の商品の品質（縫い方の丁寧さ）やサイズ・梱包の確認が手薄になり納品時のお叱りを受け、縫い直しをたくさんしています。

今年は縫製班商品の品質を落とすことのないようにするために、利用者さんが自分でチェックできるように、商品のチェック個所を記して、確実にしていく。お灯祭りの装束関係は在庫も多いので今年も少ししか作ることができませんが手順、パーツのサイズ、ポイントを押さえ、少しでも技術アップしていけるようにしていく。

10月からの華引き機械の調整や刃を替えたりなどもしました。作業所の引っ越しのためかなりの作業時間が削られてしまっていたので、祭りの準備はギリギリになってしまいました。お燈まつりの縄も230本作る目標をたてていましたが、これもなんとか祭りギリギリで達成できています。2015年は早目にこなしていきたいと反省していますが、縄の方は藁の在庫が切れて、お米が収穫されてからの作業になってしまうのと、現在利用者さんで編むことができるひとがいないという困ったことになっています。機械編の商品を探し中です。とりあえず職員でできるだけ作っていく予定です。

今年は事務作業を覚えて営業の方もさせていただこうかと思っています。まだまだ、どうしたらいいのかわかりませんが、三人協力して得手不得手をフォローしあって、売り上げを伸ばしていけたらいいと思っています。新しい利用者さんにもいろんな作業を覚えていただいて、毎日が充実した一日になるように、支援していきたいと思えます。

就労継続支援B型・工芸（瀬田）

1 営業について

ダイレクトメール、及び電話での商品販売で新規寺社の獲得。

主に近隣寺社等を訪問しての塔婆、葬祭具の営業を行った。

塔婆の目標本数30000本に対して

昨年度塔婆の注文数23672→20054 昨年比85%

塔婆、葬祭具等の金額では昨年度、6771200→6343440 昨年比94%

結果は昨年より減少した結果となりました。

寺社様の新規で9件（昨年は29件）、登録総顧客数は239件。

本年度は大阪府、愛知県のお寺様に当たっての営業をしています。

電話をかけて、もしよろしければパンフレットだけでも御願います。といった

形でとりあえず見てもらう、知ってもらうという方法で行っていました。途中何度か会議を行い、営業方法をDM先にお送りさせてもらい電話をする。DM、チラシ内容を変更したりしています。現在は電話をかけたの営業を強化しています。

また、8割以上のお寺は昔からのご縁がありますので。。。決まった業者が。。。といった形で中に割って入る事が困難でした。そんな中でも少しですが協力してくださる寺社様も多くありました。わかば園便りについては経費の問題もあり、一斉にリストに上がっている寺社さまに送りのではなく、注文をいただいた所に商品の発送と一緒に送りさせていただく事になりました。

26年度は木の川への移転、続けてお燈祭りの準備などもあり、11月から電話、DM等の営業活動はできませんでした。その結果が数字に表れています。

顧客に対する細かなフォロー、タイミング（毎年この時期、新規ならどうでしたか？等）の配慮は少なかったと思います。

2 本年度の展開

再度、卒塔婆の目標は30000本+葬祭具@新規の獲得。

但し、葬祭具については卒塔婆の端材を利用する事が前提であって、あくまでも卒塔婆の本数を伸ばす事が前提。その為にはDM、電話、チラシの作成を強化する。

営業活動（電話、DM、等）を工芸担当職員3名全員が行う。

戦力的に営業を行えるように会議を持ち、目標に対して全員で対応できるようにする。

データに基づいた先を見越した作業を行い、ストックを置き顧客の要望に迅速に応える事が出来る体制を作る。27年度は愛知県に向けて電話、DMを送付しています。

目標は30000本、その為には単純計算して月産2500本、（昨年度の月最高注文数は約3000本「一昨年は2300本」）の体制が必要。職員体制、利用者の配置の見直しも検討する。また、将来的な展望を見越して卒塔婆10万本を販売できる体制の構築を目指す。

その為には利用者全体の技術の引き上げも必要。そうすることで一人一人の工賃も上げる事が出来る。

現在の機材や配置の工夫、仕事のやりやすい環境を整える。